
13章：ナラティブ・ジャスティス？

暴力的な過去についてのナラティブを解体するための10のツール

担当：小野創太（広島大学大学院）

d200149@hiroshima-u.ac.jp

著者紹介

- Angela Bermudez
- 経歴：2008年、ハーバード大学で博士号（教育学，Ed.D. in Education）取得。現在は、デウスト大学（スペイン）応用倫理センター上級研究員。
- 研究関心：歴史教育の紛争解決・平和構築への貢献。
- 主要業績：



Carretero, M., & Bermudez, A. (2012). Constructing histories. *Oxford handbook of culture and psychology*, Oxford: Oxford University Press, 625-646.

Bermudez, A. (2015). Four tools for critical inquiry in history, social studies, and civic education. *Revista de estudios sociales*, (52), 102-118.

出典：<https://deusto.academia.edu/Berm%C3%BAdezV%C3%A9lezAngela/CurriculumVitae>

（最終閲覧日：2022年11月12日）

重要用語

- narrative：ナラティブ， story：ストーリー
- violent past：暴力的な過去
- normalize：常態化， de-normalize：脱常態化
- disciplined inquiry：ディシプリナリーな探究， ethical reflection：倫理的省察

議題

- ① 倫理的省察（reflection）の範疇をどのようなものと想定すべきか。ナラティブの解体のためのツールとしての視点や問いは十分に紹介されたが、省察との関係性を考えたい。
- ② 日本の歴史教育でこれらのツールはいかに活用されてきたか、またはされてこなかったか。

イントロダクション（pp. 269-271）

- 歴史正義の定義：「過去に犯した過ちを正す」こと。
- 懲罰を重視する法学的・物質的アプローチだけでなく、正義としての真実（truth-as-justice）を強調し、市民を再建していく基本的要素として真実を語るプロセスやイニシアティブも、ますます重要になってきている。
- しかし、歴史教育はそれを超える、不正義の究極的な表現である暴力の脱常態化（de-normalize）に努めるべきである。
- 教科書においては、暴力について議論されたり、明確な分析対象とされたりすることはほとんどない。それどころか、教科書のナラティブにおいて暴力は常態化（normalize）される傾向がある（Bermudez, 2019）。
- 暴力は人間関係の自然な特質、つまり説明を必要としない歴史のプロセスの必然的な特徴として扱われることがほとんどである。

- ☞ 歴史教科書に記載されたナラティブが、「文化的暴力」（暴力の行使を正当化する規範的信念と社会的慣習）として機能している（Galtung, 1990; Bermudez, 2019）。
- 本章では、歴史教育が歴史正義を推し進めることに貢献するためには、暴力を常態化する歴史叙述を解体することを学び、そうすることで生徒が暴力的な過去（violent past）に対する批判的理解を行うことが不可欠であると主張する。
- ☞ 歴史的探究と倫理的省察の統合、暴力的な過去の表象を批判的に検討する分析ツールの提供

理論的考察（pp. 271-277）

- ・ 歴史教育が歴史正義のツールとして機能しうる、また機能すべきであるとの主張は、歴史教育の正当な目標とは何かに関して特定の仮定に基づいており、研究者の間で多くの議論を巻き起こしてきた。
- ・ デューイ（1916）『民主主義と教育』：「問題を抱えた現在の状況」こそが、我々自身を歴史的に見ることを促し、その結果、歴史理解を現在における問題への対処に向かわせる。

これまでの歴史教育の目標においても…

- 多様なコミュニティ間で遺産を共有しているとの意識を醸成すること（Carretero, 2011; Grever, 2012; Symcox & Wilschut, 2009）
- 多様性に対する寛容さの育成、異文化間対話・平和的共存・和解の促進、人種差別や「他者」の単純化された描写に抗うこと（Barton & Levstik, 2004; Cole, 2007; Epstein & Peck, 2018; Korostelina, 2013; McCully, 2009; Psaltis et al., 2017）

について論じられてきた。

- ・ 歴史正義を推し進めること、暴力を脱常態化することはこれらの目標における新たな例。

ディシプリナリーな思考スキルの育成

- ・ 歴史学を公民教育に従属させてよいか？
歴史学を「良き市民であるとはどういうことか」という政治家による（対抗）概念の餌食（Lee, 2011, p.65）にしたり、「現在の目的のために都合のよい物語（stories）を作り出す」ために過去を略奪したりするものとして扱うことを指摘。
- この立場は、歴史教育の内在的な学問的目標と、外在的な社会的目標との区別の上に成り立っており、さらなる議論が必要。
- ・ 歴史は、「人間の問題におけるほとんどの実質的なものを、一定の手続きと基準に従って、どのような感情を抱こうと、見ることができる[…]多くの手段を提供する」（Lee, 1992, pp.23-24）。
- ☞ このような分析能力を身につけることは、民主主義社会に生き、貢献する市民を育てることであり、歴史教育の教育的価値を保証するために、他の社会的目標を押し付ける必要はない。

歴史意識の育成

- ・ 学問的歴史を、意味の構築に関わる解釈や関心、アイデンティティの折衝（negotiation）、主体性への関心についての社会的ニーズを形成、発展させるものだと考える（Rüsen, 2004）。
- 「過去に対する理解を決定することを目的とした政治的・思想的な指示（prescriptions）へのあらゆる服従」（Rüsen, 2011, p.15）から独立性を守る。
- ・ その結果生まれた歴史叙述は、2つの基本的な機能を果たしながら、現実の生活に還元される。
- ① 歴史的アイデンティティの形成、表現
- ② 集合的な未来（collective futures）の構築に向けた主体性、行動の動機付け、導き

- ・歴史教育では、生徒のアイデンティティに関連する問題や、分断されたコミュニティや国際社会で流通する論争的な記憶に取り組む必要がある。しかし同時に、歴史教育はこうした問題や記憶を、批判的で証拠に基づいた、真実を追求する歴史学の手法による精査に委ねるべきものであることも認識している。
- 歴史意識と歴史的思考の概念は相反するものではなく、それぞれの系譜の研究者たちは、その交点と不一致点について議論してきた (Seixas, 2017; Lee, 2004)。
- ☞歴史意識のコンピテンシー (Seixas & Morton, 2013; Körber, 2014)

歴史教育における倫理的省察

- ・倫理的省察を歴史意識の枠組みに含めること、そしてそれ自体が歴史的説明の厳密性を損なわないとの確信 (conviction) は、歴史教育が歴史正義を育むべきだという主張にとって特に好都合である。
- ☞Seixas & Morton (2013) : 歴史解釈の倫理的側面, Seixas (2017) : 過去の不正とその遺産に対する現在からの折り合いづけ
- ☞Bermudez & Epstein (2020) : 暴力的な過去についての倫理的省察に関わる問い
 - 「紛争状況の関係者が利用できた行動方針とその選択を制約する条件や障害についての問い」
 - 「短期および長期に及ぶ暴力の結果に関する問い」「暴力の犠牲者や彼らの経験に焦点化する問い」
 - 「暴力の行使に関わった行為者の責任に関する問い」
 - 「暴力を正当化するような説明と解釈に対抗するための問い」 etc.
- ◎歴史正義への貢献に向けて、ディシプリナリーな探究と倫理的省察にいかに取り組むか？
- 歴史的ナラティブを解体し、暴力を常態化、あるいは非常態化する様々な方法を特定するための 10 のナラティブ・キー・モデルを提供する。

ナラティブ・ジャスティスのための 10 個のツール (pp. 278-285)

- ・10 のナラティブ・キーは、スペイン、コロンビア、アメリカの暴力的な過去から、9 つの異なるエピソードに内在する暴力を、36 の教科書記述がどのように表現しているかを調査した研究から生成されている (Bermudez, 2019)。各キーは、ナラティブの表象を構築するために用いられる言説的なメカニズムを特定する。

紛争と暴力の関係

- ・紛争と暴力の関係をナラティブがどのように表現しているかに着目。
 - ・暴力を常態化するナラティブは、社会的対立の存在と暴力への訴えを混同し、対立があるところには必然的に暴力が伴うことを暗に示している。
 - ☞対立についての説明と暴力についての説明を区別する。
 - <キーの具体>
 - ・歴史的な出来事の根底にある社会的対立の中で、何が争点 (dispute) になっていたのか。
 - ・なぜ、どのようにして暴力が社会的対立に対処するための好ましい手段となったのか。
- etc.

暴力的な出来事をより大きな歴史的プロセスの中に位置づけること

- ・長期的なプロセスの中に出来事を位置づけることは、歴史叙述や説明の特徴であり、複雑でダイナミックな現象を高度に理解することを可能にする。しかし、それは出来事に意味や目的、方向性を与えることになる。
- 国家建設、独立、進歩、革命など、価値ある社会的目標への道筋をつけるためのステップと見なす傾向

がある。暴力を悲しいけれども避けられない現実、尊いものを達成するために払うべき小さな代償として正当化。☞暴力的な過去を再構成 (reframe) する必要がある。

<キーの具体>

- ・歴史的プロセスの異なる次元と方向性
- ・歴史的プロセスにおける様々な行為者の経験

etc.

ナラティブの多元性

- ・正史 (historiography) と集合的記憶は政治的闘争の場となり、そこでは複数のナラティブが共存し、支配、排除、論争、抵抗、あるいは批判的対話の力学を通して互いに関係しあう。
- ・しかし、暴力を常態化するナラティブは、暴力的な過去に関する支配的な説明を、解釈の問題ではなく、**事実の問題**として伝える。公的なストーリーラインを乱すような出来事や視点は、抑圧され、周縁化され、歪曲される。

☞複数の方法でナラティブを調整 (coordinate) することができる。

<キーの具体>

- ・ナラティブのプロットの中で、異なるストランドや声としてナラティブを織り込む。
- ・ナラティブを対照的な見解として並べ、相違点、分岐点、矛盾点を考察し、理解するよう促す。

etc.

被害者の視点と経験

- ・暴力を常態化するようなナラティブは、ある特定の集団に生じた被害の程度や深さを過小評価する。
→**暴力を英雄的行為として評価し、他者に与えられた苦痛を隠す**ような説明から生じる。

☞紛争における「立場」とは無関係に、**被害者の視点や声を強調**することができる。

<キーの具体>

- ・数字や統計データを示すだけでなく、被害者の経験の質やどのようにその経験を理解したかを表現する
(例：戦争を生き抜こうとした経験、故郷を追われた経験など)。

etc.

暴力の背景にある主体性

- ・残虐行為や不正義がなぜ、どのように起こるのかを説明するためには、暴力を引き起こすうえで加害者が果たした役割をナラティブが表現する必要がある。
 - ・教科書は責任 (blame)、(もしくは応答責任 (responsibility)) を伴わない加害のストーリーを伝える。
- ☞**主体性**と様々な行為者の**責任**を明らかにする。

<キーの具体>

- ・加害者が下した決断と、その選択に影響を与えた理由や動機を強調するだけでなく、彼らの選択肢を形成したり、制約したりした条件も考慮する。

etc.

暴力の背景にある社会的要因

- ・暴力を常態化するナラティブは、暴力的な出来事を社会的に真空な状態で説明し、紛争を生み、それに対する暴力的反応を引き起こす**社会的要因が持つ複雑な相互作用から切り離す**。それらの要因からなぜ起こったかを説明するが、なぜ暴力的になったかは説明されない。

☞**暴力の説明 (正当化ではない)**に役立つ問いに取り組む必要がある。

<キーの具体>

- ・どのような資源、目標、信念が争点となったのか？

- ・暴力的な行為者が保持しようとした、どのような利益やニーズが危険にさらされたのか。

etc.

非暴力的なオルタナティブ

- ・暴力を常態化するナラティブは、見解の相違を表明し、暴力の行使に積極的に反対し、紛争に対処するための非暴力的な戦略を主張した個人や集団の行為者を**排除**するか、せいぜい**周縁的な存在**に留めている。
- ☞異なる根拠で暴力の行使に**異議を唱えた歴史上の行為者を登場**させ、**暴力の利便性、公平性、正当性**についての**社会的な不一致**が存在したことを明らかにする。

<キーの具体>

- ・個々の指導者と社会運動との間の複雑な相互作用を表現する。
- ・行為者の立場性を支える信念を説明する。

etc.

暴力のコスト

- ・暴力を常態化するナラティブは、暴力による**負担とコスト**に関して、どちらかといえば単純化された、あるいは不明瞭な説明を提示する。
- ・犠牲者の数など、抽象的な記述のほかに、暴力の行使によって**何が破壊され、何が失われたのか**について語る必要がある。
- ☞**被害の大きさと範囲を正確に測定**し、読者に動揺を与える**喪失感**を伝えなければならない。

<キーの具体>

- ・例えば、心理的・社会的トラウマの植え付け、文化遺産の破壊、経済資源の喪失、環境破壊など、物質的および非物質的なコストについて議論する。

etc.

暴力の利益

- ・暴力を常態化するナラティブは、暴力によって**何が得られるのか、また、誰が利益を得るのか**について言及せず、暴力が結集する利益に影を落としている。
- ☞**誰が利益を得、誰が代償を払うかを区別**する。

<キーの具体>

- ・依存、もしくは繁栄をもたらした産業について探究する。
- ・暴力が特定の個人、または集団の経済的、政治的、文化的地位を高める方法を検討する。

etc.

過去と現在のつながり

- ・暴力を常態化するナラティブは、過去に始まり、過去に終わる。そして、歴史的探究を促し、歴史的知識を**重要なものにする現在の疑問や問題**から切り離される。
- ☞暴力的な過去を**批判的に理解**するためのナラティブは、**現在と様々な関係を構築**する。

<キーの具体>

- ・ナラティブが応答を試みる現在の問題や関心を導入する。
- ・暴力による結果に耐え続けている社会全体と特定の集団に向けて、**過去の暴力の遺産**を強調する。

etc.

結語 (pp. 285-287)

- ・割愛